

第1回 JRローカル線 維持・利用促進検討協議会



令和4年6月24日



兵庫県

Hyogo Prefecture

JRローカル線 維持・利用促進検討協議会について

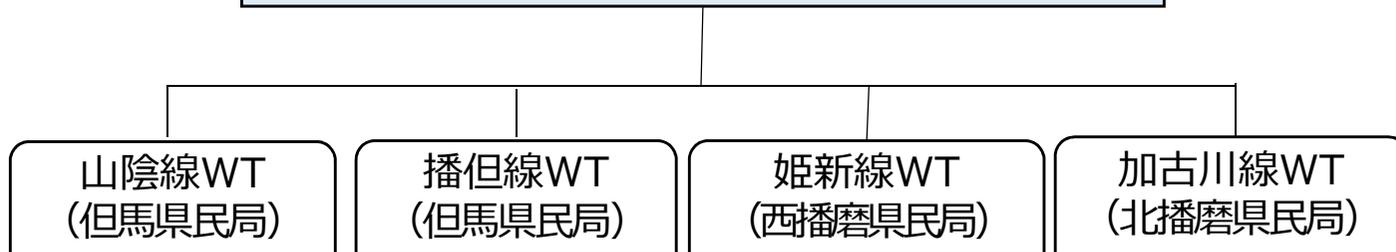
趣旨

地域住民の日常生活や観光・交流による地域活性化に欠くことのできない**鉄路を維持**するため、沿線地域の実情・課題を踏まえ、**駅周辺の活性化**や**観光（DC・万博等）**と連携した利用促進策等を官民連携で検討

協議会の全体構成

協議会で検討の方向性を示し、**路線毎に設置するワーキングチーム（WT）**において、地域の事情を踏まえた利用促進策を検討（WTの検討結果は協議会で集約）

JRローカル線維持・利用促進検討協議会



※WTは協議会の構成員を参考に、県民局等で組織。必要に応じて他府県の沿線自治体等に参加を依頼。

※（ ）内は事務局。
播但線及び姫新線には中播磨県民C、
加古川線には丹波県民局が参加。

R4年度 協議会・WT スケジュール

協議会	WT	時期	内容
第1回		6月	現状把握、意見聴取（有識者）、検討の方向性・進め方
	第1回	7月	現状把握、課題の抽出、検討の方向性
	第2回	9月	鉄道の必要性・地域の意見集約、利用促進策の検討
	第3回	11月	検討結果の取りまとめ
第2回		12月	WTの検討結果の集約、県としての取組方策の検討
第3回		1月	令和5年度予算、検討結果のとりまとめ

検討の方向性

1 日常利用の促進

- 沿線住民等の鉄道離れを呼び戻し、マイカーから鉄道利用へ転換を図る

2 観光需要等の増進

- 地域資源の掘り起こし・磨き上げなどにより、観光需要の拡大、鉄道利用の増加をめざす
- 都市住民等のまちづくり活動への参画促進により、関係人口の拡大、鉄道利用の増加をめざす

第1回協議会の進め方

1. 鉄道利用の現状・必要性

① JRローカル線の現状（JR）

経営状況（赤字）を説明

② 鉄道の必要性、これまでの利用促進の取組（県）

- 地域住民の足（通学、通院など）
- 災害リスクに備えた迂回路

③ 各WT代表の意見(市町)

2. 利用促進の取組検討

① 今後の取組の方向性（県）

② DCの取組（ひょうご観光本部・JR）

③ 外部講師による講演（株）ノヴィータ 代表取締役会長 小田垣 栄司 氏

先進事例の紹介や鉄道の活用につながる新たな視点での地域活性化等の提案

- 観光による利用促進
- まちづくりによる利用促進

④ 意見交換

当日の発表等を踏まえ有識者から意見をいただいた後、委員全員で意見交換を実施